活用事例応募様式

記載例

1．活動の概要

学校名	仙台市立枡江小学校	担当者	後藤　潤，板垣 英恵
活動タイトル	枡江の森を守り継ごう		

テーマ（該当するものすべてにチェックしてください）

☐まちづくり　☐防災・減災　☒環境　☒SDGs　☒地域学習

対象学年（クラス）	活動期間	活動総時間
5 学年（総合），全学年（全校音楽）	総合：４月～2 月　全校音楽：９月～１１月	65 時間

目指す子ども像	身近な自然とそれを守り継ぐ人々との関わりを通して，自分にできることを考え，よりよい地域づくりに主体的に取り組む。
活動の特徴（ポイント）	学校特有の地域素材（人・モノ）との関わりを通した探究的な学習，及び異学年交流の取組

2．読本活用の方法

環境問題に関する導入，及び枡江の森の散策後に，P.2-3 の情報を示した。
・市民の力で環境問題に取り組んだ歴史を知り，世界的な環境問題をより身近に感じることに用いた。
・「杜の都」の精神や歴史を知り，枡江の森を守り継ぐ思いや取組への関心を高めることに用いた。

3．活動の実績（写真や図表なども掲載してください）

1）今の自分にできることを考える

①環境問題について調べ，自分たちの生活や地域と結び付けて解決の一歩を考える。
②枡江の森の実態調査をする。
・自然観察（春，秋），ゲストティーチャー（仙台市民の森を創る会，百年の森推進課，幸町市民センター）を招いての学習
②課題と解決方法を探究する。
・ｐ４ｃ（話合いの手法の一つ）の活用した課題づくり

【ｐ４ｃでの児童の様子】
枡江の森散策やゲストティチャーの話を基に，枡江の森の課題を共有しました。森を受け継ぐ方々の思いや，散策をして実感した森の楽しさを大切にしながら，「枡江の森の魅力を誰に，どんな方法で伝えたいか」を伝え合いました。
協働的な学びの空間の中で，今後の学習に対する問いを深め，明確な相手意識を持つことができました。

ｐ４ｃの様子

2）自分にできることを試行する

①解決方法を実践する。
・同様の課題意識を持つ児童同士のグループでの解決方法の実践
②課題，解決方法の再検討をする。
・ゲストティチャー（枡江の森魅力発信プロジェクトの方々）を招いての学習や間伐体験
・学習活動の目的や個々の課題意識を再確認，学習ゴールの共有

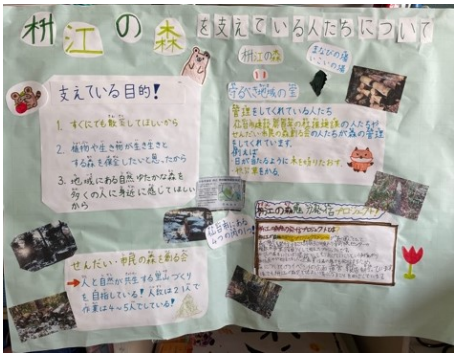
解決方法の実践の様子

【課題解決での児童の様子】
枡江の森について何をどのように伝えたいかという思いを最後まで持ち続け，仲間と共に活動を行い，実現へと向かいました。
自然と活動の進捗状況を互いに伝え合う姿が見られました。グループ内ではそれぞれが役割を担い，互いを認め合いながら活動をしていました。自分たちで考えたことが形になっていくことに達成感を感じているようでした。

※　分量は最大 2 ページまでとしてください。応募様式の内容は、事例として公開されることがあります。

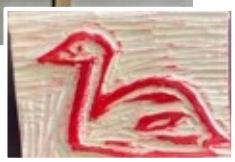
3）枡江の魅力の発信する

・各グループで考えた方法（ポスター，リーフレット，看板，動画等）での発信，展示する。



↑「枡江の森を支える人たち」についてまとめたポスター

←「枡江の森の歴史と自然」に関する看板



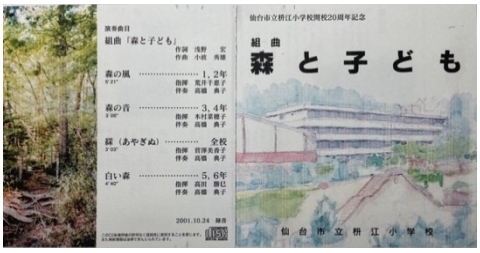
↑枡江の森の間伐材を使って作成したスタンプ
学校に隣接する与兵衛沼に飛来する白鳥を象っている

↑「枡江の森の植物」をまとめたリーフレット

【異学年での関わりを生かした「森の声タイム」】

1）森の声タイムで全校音楽

・開校 20 周年記念に作成した組曲「森と子ども（枡江の森と与兵衛沼の四季を歌った 4 部構成の曲）」を朝活動の 10 分間に学年部ごとに練習する「森の声タイム」の実施（令和 5 年度は更に，作曲者である地域住民からの全校児童へのメッセージ動画の視聴と全校音楽 2 回を実施）



↑開校 20 周年記念に制作された「組曲 森と子ども」の CD

2）学習発表会での発表

・保護者，地域への発表（令和 4 度はコロナ禍により，学年部で撮影した動画発表を実施，令和 5 年度はオープニングで対面発表が実現）

4．子どもの変容と成長

1）相手意識，目的意識を持った課題解決の具体の姿

・枡江の森の実態調査から見えてきた課題を基に，森を守り継ぐために何ができるのか，自分ごととして考え，誰にどのような方法で発信するか学習計画を立てながら，主体的に活動をしていた。

・担任以外の教職員に自らアポイントメントを取ってアドバイスを求めたり，異なる課題に取り組む仲間同士で情報交換したりしながら解決に向かおうとするなど，協働的な学びが見られた。一連の学習活動を通して，自己有用感の向上につながったと言える。

2）学習後のアンケート結果から

・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という質問に，肯定的に回答した子供は，８３.３％になった。

・「４年生と比べてできるようになったこと，自分の学びが深まったこと」に対する記述式回答では，自分で計画を立てて進める力や情報を集める力，友達の考えを受けて自分の考えを見直す力，工夫してまとめる力など，探究的的に学ぶ力が高まったと自分自身の成長を認識している。

・学校評価では，保護者から全校児童による組曲の発表への高評価を得ており，「大事な曲なので，これからも伝統をつなげてほしい」等，肯定的なコメントが寄せられた。枡江の森を介して，学校理解，地域理解につながっている。

5．今後に向けて

・学校教育目標の実現に向けて，地域素材を活用しながら子供たちの資質・能力を育むため，発達段階に応じたカリキュラムの作成と，その実践を通したブラッシュアップを行う。

・自然環境を，歴史，まちづくり，防災等，多面的な視点で捉えた学習の展開を検討する。